

2021年4月30日

各 位

### 米国における太陽光発電事業への参画について ～当社初となる、海外における太陽光発電事業への参画～

当社(社長:大田 勝幸)は、アドバンスド・パワー(Advanced Power AG、本社スイス ツーク、CEO:トマス E. スパング、以下「AP社」)が米国テキサス州で開発を進めている太陽光発電事業(以下「本事業」)に参画いたしますのでお知らせいたします。なお、本事業の運営は事業会社である Cutlass Solar LLC が行う予定であり、今般、同社に対して新たに芙蓉総合リース株式会社(社長:辻田 泰徳、以下「芙蓉リース」)および当社それぞれが Cutlass Solar Partners LLC を通じて出資をいたしました。

本事業は、当社初の海外における太陽光発電事業への参画となります。発電容量は、当社が手掛ける太陽光発電所としては最大となる140MW(当社出資見合い持ち分容量70MW)であり、2022年後半の運転開始を予定しています。

事業用地は、米国テキサス州最大の都市であるヒューストン南西約60kmの好立地に位置し、年間を通して日射量が豊富です。また、連邦政府の再生可能エネルギー促進策などによる支援があることに加え、今後人口増加に伴う電力需要の増加も見込まれています。

発電した電力はERCOT(Electricity Reliability Council of Texas: テキサス州の系統・市場運営機関)を通じた販売を予定しており、自由化で先行する米国電力市場において、海外事業経験・知見を蓄積してまいります。

ENEOSグループは、2040年長期ビジョンにおけるありたい姿の一つとして、自社排出分のカーボンニュートラルの追求などを通じて低炭素・循環型社会の形成に貢献することを掲げています。その取り組みの一環として、当社は2022年度までに、国内外において再生可能エネルギー事業の総発電容量を約100万kW以上に拡大することを目指しています。

当社は、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」および目標13「気候変動に具体的な対策を」につながる再生可能エネルギーを始めとする環境配慮型エネルギーの供給を積極的に推進し、低炭素・循環型社会の実現に貢献してまいります。

<当社戦略(再生可能エネルギー事業の拡大)と国連「SDGs(持続可能な開発目標)」との関わり>



<太陽光発電所の概要>

事業会社	Cutlass Solar LLC
発電所所在地	米国テキサス州フォート・ベンド郡 (Fort Bend County, Texas, U.S.A.)
敷地面積	約700エーカー(約2.8km <sup>2</sup> )
出資社(間接出資)	当社、芙蓉リース、AP社
総発電容量(当社出資見合い持ち分容量)	140MW(70MW)
運転開始	2022年後半予定

建設予定地



以上